

紫竹学区の取組紹介

1 自治会を行う上で大事にしていること

- (1) 会議の重要性（町内会長会議 年 10 回）
- (2) 達成感と充実感を味わってもらうために、町会長は必ず何か仕事をやってもらう。
- (3) 各個人の時間的余裕を考えながら仕事の内容を見極めるのが大事。
- (4) 町内会を活性化するためのサポート

2 イベント等における工夫

- (1) 未加入者や他学区の人でも基本的には歓迎
- (2) 企画の若返りを図る。
- (3) イベントの時間帯によって、子供（児童～10 歳代）、若者（20 歳代～50 歳代）、熟年者（60 歳以上）が楽しめる企画
- (4) 主催者も参加者も楽しむことができる。

3 役員に対するモットーとアドバイス（各学区の参考になれば…）

- (1) 色々なアイデアが出てくるので、全て前向きに考える。
- (2) どうすれば達成可能なのか全員で考える。
- (3) 自分が出したアイデアを全員で検討することにより、新たなものが生まれる。
- (4) 色々な人の中には、多くの素晴らしい企画や考え方がある。
- (5) 人（自分も含め）はお金や物で動かすのではなく、企画と楽しさで動かす。
- (6) 自分の学区を住みやすいようにするのだから、基本的には飲み食いは自腹にする。
- (7) 参加者に対しても、面白さや楽しさのメリットを必ず感じてもらう企画にする。

4 紫竹まちづくりビジョンの作成

- (1) より多くの人の意見を拾う
 - 紫竹まつり、体育祭でのアンケート
 - ワークショップの参加者を回覧版にて全世帯に回覧：最終 30 人ほど参加（意識の高い人）
- (2) 目標の設定
 - ① 大きな目標（長期計画）「日本一住みたいまち 紫竹」
 - ② 中期計画を立てる → まちづくりビジョンの作成
 - ③ 年度計画（詳細）については、各団体が作成
- (3) ビジョン作成内容
 - ① みんな楽しく交流プロジェクト → 各団体以外の集まりの支援
 - ② 町内の元気応援プロジェクト → 町内会のサポートシステム
 - ③ 学区イベント充実プロジェクト → イベントの充実と参加者の増
- (4) 実施方針
 - ① 実施するために町内会長 4 名をビジョン P J チームに選出
 - ② 自治連役員と共に具体的な対策を協議
 - ・ 町内会交付金（ビジョン②）
 - ・ 町内会役員サポートシステム（ビジョン②）

- ・学区内掃除後の花見（ビジョン①）
- ・町内会員でない世帯にも可能な限り案内を配布（ビジョン③）

5 4ターゲットに向けて実施している紫竹学区取組

(1) 大学生（長期目標）

- ①今のところ自然体での活動（自域住民のみ）
- ②今後の取組予定
 - ・紫竹学区出身の大学生を含めた若者でイベント等の企画の実施
 - ・その大学生の関係者や紫竹に下宿している人を勧誘
 - ・継続的に企画等を行ってもらうことによる人数の増
 - ・若者が企画を行うイベントを認知してもらうことによる他の大学生の増
 - ・色々な大学からの参加者の増

(2) マンション世帯

- ①ビジョンを通して地域活動の面白さと重要性を知っていただく。
- ②PTAの役員等で未加入なマンション住民に加入の促進
- ③管理者との協議：多くは雇われ管理者（現状で満足→改良しようとしな）
- ④今後の取組予定
 - ・加入しているマンション住民に働きかけて勧誘してもらい輪を広げる。
 - ・マンションでの交流会の促進（ビジョンの予算を使うのも可）
 - ・回覧板を回す

(3) 負担を感じている既存加入者

- ①脱退した時のデメリットを伝える。
- ②色々な工夫（イベント等）により、未加入者が入りたくなるような学区にする。
- ③現在のデメリット感（お金と役職の時間的制約）の把握
 - ・何が負担になっているかの分析
 - ・ビジョン②より役職については、町内会サポートにより対応する。
 - ・より有意義な情報の提供とまた参加したくなるイベントの企画

(4) 高齢者

- ①要配慮者の登録（災害時の救助の要望）による必要性
- ②元に戻らない人間関係については放置
- ③敬老の日やお地蔵さんでは、多くの高齢者にあるメリットを感じさせる。

6 今後の目標

- (1)家に引きこもりがちな人に対して、どのようなアプローチができるのか。
- (2)体育会系の方は表に出てくるが、文科系の方は趣味にのめり込む傾向がある。
- (3)文科系の方が前に出て発表できるイベント等の企画

7 これからのチャレンジ

- (1)災害時における飲料水の確保（井戸、手動ポンプ、人力掘削など）
- (2)文化祭の検討
- (3)同窓会の補助